

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690100563
法人名	社会福祉法人相幸福社会
事業所名	グループホームみのり
所在地	富山市城川原 1 丁目17-14
自己評価作成日	平成30年11月15日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1 階		
訪問調査日	平成30年12月20日	評価結果市町村受理日	平成31年1月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

他の地域密着型事業所等を併設している。そのために他の事業所と連携を取りながらケアをおこなっている。利用者、職員、ご家族様との関係は極めて良好で「潤いのある家庭的なホーム」を目指して取り組んでいる。公園が隣接しており、毎日の風景に季節感を感じる環境となっている。また、個々の希望を叶える催しとして、外食の機会を取り入れ、日常的に買い物やドライブ等に出掛ける等して生活を楽しんでいる。地域住民との交流も毎月あり、地域の方々も気軽に立ち寄ってくださる、地域に根ざした施設になっている。育児休業制度や資格取得制度を整備しており、職員が向上心を持って働くことができる職場である。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の前には桜並木を挟んで広大な公園が広がり、晴れた日には立山連峰が一望できる。その恵まれた立地には、小規模多機能、特別養護老人ホーム、ショートステイが併設され、各事業所とは地域行事、職員研修や人材育成等において、協力体制がある。職員は研修に参加する機会も多く、プライバシーの確保や、個別ケアのための学びが充実している。職員全員が介護福祉士の資格を有し、介護の専門家として、利用者を大切にする思いは、今年度目標「それぞれの楽しみを見つける」、半期ごとの目標「ワンだふるライフⅠ、Ⅱ」に表れ、行きたい場所へのドライブ、食べたいものの外食などにつなげている。法人は人事評価制度を取り入れ、年2回の面接時に意見を聞き運営に反映させている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が	グループホームみのに			
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿った事業所目標を事業所入口に掲示し、職員の個人目標を作成している。また、自己評価をしたものを職員同士が見られるようにすることで、他の職員の良い部分をまねたり、他者に評価されることも良い刺激になると考えている。	事業所目標『それぞれの楽しみを見つける』を掲げながら、年度の前期・後期にはそれぞれ半年ごとの目標を皆で作成し共有している。職員は作成した理念を基に個人目標を作り、日々の実践に活かすよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	城川原の長寿会から発生した仲良しグループ「コスモス班」の訪問があり、自分たちの健康のため毎月第4金曜日に集まり、カラオケや体操、血圧測定等をおこなっている。行事の時は利用者と一緒に参加するのを、地域の方々や利用者、職員共に楽しみにしている。	施設内の地域交流室で地元女性グループが活動したり、地域の長寿会に利用者が参加するなど相互交流を行っている。また、近隣散歩時の気軽な声かけ、子ども神輿の巡回、避難訓練の参加等々、地域との日常的なつきあいがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に施設の職員が参加し、地域に密着した施設でありたいと思っている。地域包括支援センター主催の認知症実践的事例会議に出席し、支援の方法の事例報告を行っている。また、運営推進会議の開催により、地域の方々の理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回行っている運営推進会議で出された意見を傾聴し、会議記録は回覧し、地域の方々の思いや考え、助言等を知る機会としている。	町内会長、民生委員、地域包括、学識経験者、家族代表の参加を得て、事業報告、現状の課題等について話し合っている。意見交換を踏まえ、「自主防災組織連絡図及び役員連絡網」に、事業所が地域の一員として位置づけられるなど、積極的な取り組みが実現している。	毎回、運営推進会議で話されている内容について、すべてのご家族や利用者が認識し、共有できるよう、具体的な取り組みについての検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会への参加により、他のグループホームの状況を聞いたり、市担当課には、悩み事等を相談し指導を受けたりしている。運営推進会議等で地域包括支援センターと意見交換を行い、協力関係を築くようにしている。	地域包括職員は運営推進会議の中で、事業所の現状を把握し、見学希望や空き状況等についてそのつど連絡を取り合っている。また、グループホーム連絡会の研修会に事例を提供するなど積極的に取り組み、市の担当者との協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束等行動制限についての取扱い要項」を職員全員に配布している。また、ミーティングにおいて意見交換する中で、職員間でケア方法が身体拘束にあたらないか話し合う機会を作っている。他の併設事業所への行き来も自由に行っている。	年一回、研修会を実施し、改めて身体拘束をしないケアについて考える機会をつくり、職員間での共有を図っている。毎月のカンファレンスでは、「身体拘束等行動制限についての取扱い要項」を基本に、言葉の拘束などについて日々のケアを振り返り、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃のケアの中で職員同士が注意し、声をかけ合うことで防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は順次、権利擁護研修に参加している。必要な利用者に対して、案内や付き添いをする事になっているが、以前は、成年後見制度を利用したご家族様がいたが、現在は、希望されるご家族様はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者、ご家族に対して管理者、ケアマネージャーが十分に説明することで、理解、納得していただくように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、富山市の介護相談員の訪問を受け、良好な関係性になっている。利用者やご家族とは、日常のケアの中、面会時などに気軽に話し合うよう努め、意見や要望を聞いている。また聞き取った意見はカンファレンスで共有し、事業運営に反映している。	面会時には、利用者の生活や状態の変化等について伝え、家族としての率直な意見を聞くよう努めている。出された意見について、解決を急ぐものは事業所として検討し、経過は日誌に青字で記入して職員間の共有を図り、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時やカンファレンスの際に出た職員の意見や提案は、毎月の管理者会議で共有し、運営に活かしている。また、異動で配置された新職員には1ヵ月、3ヵ月、6ヵ月と節目で話し合うようにしている。	申し送りや会議で話し合う他、職員と共に業務に入っている管理者は、個々の職員の声に耳を傾け、思いや意見を聞くよう努めている。また、法人は人事考課を実施し、自己評価表を基に、半期に一度、管理者及び施設長の面接が行われ、意見を聞き反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長、施設長、管理者の意見交換を頻回に行うことで働きがいのある職場づくりを心がけている。また、発言しやすい職場であることを心がけ、各職員の意見が仕事に反映されるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には段階に応じた研修に参加できる機会があり、介護サービスの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者および職員は、富山県認知症グループホーム連絡協議会の研修に参加し、同業者との交流、ネットワークづくりを通じてサービスの向上を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人だけでなく、ご家族との話し合いを密にし、お互いに納得できるまで話し合い、家族に協力してもらって、アセスメントを仕上げることで、家族が考えていることや、利用者本人の日頃の様子を知ることができ、初期の段階から信頼関係を築けるのではないかと考え業務に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人だけでなく、ご家族との話し合いを密にし、お互いに納得できるまで話し合い、家族に協力してもらって、アセスメントを仕上げることで、家族が考えていることや、利用者本人の日頃の様子を知ることができ、初期の段階から信頼関係を築けるのではないかと考え業務に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接に伺い、必要とされるサービスや支援を関係者と話し合い、ケアプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日生活する中で、昔のことや職員の知らないことを教えていただき、職員、利用者が支え合う関係づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との外出や外泊の機会を大切にし、受診の付き添いなど依頼できる場合は、なるべく関わりをもってもらうようにしている。外食や職員との外出時に慣れ親しんだ地域を訪れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院やかかりつけ医への付き添いや送迎をしている。友人の訪問も多くみられる。各居室には、家族の写真等、馴染みのものを入れていただいたり、遠方に住んでいるご家族様には、定期的に管理者が連絡している。また、家族や知人が気軽に訪問できる環境づくりを心掛け関係継続の支援に努めている。	家族の面会が頻繁にある利用者や、同じフロアの小規模多機能施設を利用している友人と歓談する利用者など、家族や友人・知人との交流が行われ、また、暑中見舞いや年賀状の投函、地域の神社への初詣など、人や場所との関係の継続への支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を重視している。職員が間に入り、お互いに関わり合い支え合えるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)終了後も、本人やご家族に頼られる事業所や職員でありたいと努めている。他事業所に移られた後も、顔を合わせた際に相談を受けることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話や日々の行動、ご家族との会話の中で本人の希望、意向の把握に努めている。個人ファイルへの記録やカンファレンスで、職員間の共有を図っている。	利用者との何気ない会話の中で交わされた言葉は、申し送りやカンファレンスで共有し、日誌や個人記録に記述している。家族からの情報は面会時の話し合いの中から汲み取ることも多く、本人の生活や医療面の要望などを聞きとり、支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接に伺い、本人やご家族からこれまでの暮らしを聞かせてもらい理解することで、これからのサービスを検討している。毎日の生活の中で利用者さんの思い等を聞き逃さないよう心掛けている。また、面会時にもご家族からお話を伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での気づきを大切に、カンファレンスにおいて共有している。本人のできることをしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスには職員全員が参加し、職員同士が意見交換をし、現状に即した介護計画を作成している。介護計画の見直しは、個々の状態に即して随時行い、チームとして利用者本位の介護計画となるよう心がけている。	カンファレンスでは毎月、現状に即した介護計画となるよう、利用者一人ひとりの様子を話し合いながら、介護計画の見直しや継続について確認している。話し合いの内容や家族の意見等については、カンファレンス記録で共有し、計画作成につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りや月1回の職員全員参加のカンファレンス、日々の生活の中での気づきを個人ファイルに記録するなどし、情報の共有、介護計画への反映を実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の事業所の協力を得られることや、少人数であることを生かし、その時々ニーズに柔軟に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアを受け入れたり、地元の友人に訪問してもらうことで活気ある生活を送り、地域とのつながりを持ち続けてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医との関係を大切にしている。受診時の情報提供やご家族の都合が悪い時の付き添い、送迎には職員が柔軟に対応している。嘱託医とも連絡を密にしている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医を選択できるよう、入所時に説明し希望を聞いている。事業所の嘱託医は4週に1回の往診があり、それ以外の場合には、随時電話で相談することができるなど、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調が不安な時は看護師に相談する。看護師は主治医の指示をしっかりと他の職員に伝え、適切な受診や看護、介護を受けてもらうよう連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された場合、本人や家族の思いを尊重し、主治医の指示に従い、安心して治療が受けられる関係づくりを行っている。 また、安心して治療が続けられるよう、ご家族が希望された場合は3ヵ月間居室を空けて、退院を待つことになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した看取り指針」に基づいて、ご家族・本人に説明し、納得できるまで話し合っている。（現在話し合った方は2名） 職員には「できること」「できないこと」をカンファレンスの中で共有し、一人ひとりの状況に寄り添った対応ができるようチームで取り組んでいる。	契約時に「重度化した看取り指針」を説明し、また状況に応じて、医師、家族、職員等の話し合いを行っている。指針に基づき、看取り体制の同意書を交わしているが現状で、看取りの実績はない。職員の不安に対してはテキスト「お別れの日に向けて」で対応を学ぶなど支援体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々のファイルに緊急時の連絡先や既往歴等が入れてある。また、緊急時対応マニュアルをフロアに設置している。職員同士声かけしながら対応の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、夜間を想定し、消防・地震・水害等の避難訓練を年2回行っている。時には、地域の方々（町内会長、利用者家族、消防団員）にも訓練の様子を見てもらい、意見をいただいている。また、いざという時に備え、水や食料の備蓄をして地域の方々に施設を開放する旨も伝えてある。	年2回、消防署、地域の協力を得て、利用者が安全に避難できるよう訓練を実施している。今年度は地震時の想定として、利用者が実際に机の下に潜るなど、落下物への対応についての訓練を行い、具体的で実効性のある災害対策について、職員全体で考える機会を設けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「プライバシー保護及び個人情報保護マニュアル」を作成し、マニュアルを周知することを心掛け、馴染みの関係を大切にしつつ、職員として利用者さんに対して、馴れ合いや遠慮がなくならないよう気をつけている。	マニュアルをフロアーに掲示し、意識づけを図っている。カンファレンス時には、個々を尊重した言葉かけについての周知を図り、「利用者の頭上での会話」「職員同士の声かけ方法」等について検討し、排泄や入浴介助時のプライバシーについても十分な配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の発言や生活の中でわかったことを個人ファイルに記録したり、毎日の申し送りで他の職員に伝えたりして、日常生活のいろいろなことを利用者主体で決められるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のだいたいの流れはあるが、天候や利用者の希望に沿って外出したり、職員と一緒にスケジュールを決めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時や入浴準備、外出時など、職員と一緒に着るものを選び、身だしなみを整え、おしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。また、女性の利用者さんにはお化粧品のこだわりもあり、職員との買い物も楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に味噌汁やご飯を用意したり、盛り付けをしたりし、職員と一緒に食事をしている。片付けも手伝ってもらうことで役割を持ってもらっている。また、季節に合わせて、おやつ作りをしている。	食事の準備や盛り付け、片付けなどは、利用者の状態やできることに合わせて、職員と一緒にやっている。桜餅、焼き芋、白玉、どんどん焼き等の手作りおやつの日を設けたり、誕生日の会食、花見や遠足での外食など、食事を楽しむことができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月1回の体重測定を実施し、変化がある時には主治医や看護師、栄養士、介護士等でのカンファレンスを開催している。 一日1,300mlの水分補給を行い、栄養士によるバランスのとれた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施し、個々の利用者のレベルに応じた介助を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握し、時間ごとの声かけや誘導で、トイレでの排泄を支援している。 頻尿の利用者さんにも、その都度、職員が付き添い、転倒のリスクを少なくするよう心掛けている	排泄チェック表から、一人ひとりの排泄パターン・習慣を把握し、本人の側で『いま、(トイレに)寄っていきませんか?』など、プライバシーや自尊心の尊重に配慮した声かけや見守りによる、排泄の自立支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の利用者に合わせた水分補給や栄養士による食物繊維の多い献立作り、毎日の運動により便秘の予防に努めている。おやつでのヨーグルト、オリゴ糖の摂取も勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間の設定はないが、利用者同士が一緒に入浴するのを楽しみにされているので、現在は同じ日に入浴している。 利用者さんの体調や気分に対応して、急遽の入浴もおこなっている。	ゆつたりとした空間の浴場には、機械浴槽が1槽と、いたわり浴として家庭用浴槽が1槽、階段のある大きな浴槽が1槽あり、利用者の状態にあった入浴方法を選択している。ラジオをBGMに流し、ゆず湯や入浴剤を楽しみ、利用者が好みのシャンプーやリンスを使用するなど、個々に合わせた支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室で個人の生活スペースは保たれている。 眠れない利用者は居室でテレビを楽しまれたり、疲れた時は静養されている。 フロアのソファに横になってテレビを見ている利用者さんのくつろぐ姿が見受けられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医と看護職員が常に連携を取ることを心掛けている。 新しく処方された薬については個人ファイルに記録し、職員が確認、理解するようにしている。また、薬剤情報をファイルにはさんである。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手作業の好きな方には職員と一緒に買い物に行き、道具等を購入して来たり、飲酒や喫煙など個人に合わせて対応している。 職員と1対1で外出に行ったり、季節に合わせた外出を企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食べたいもの、欲しいもの等の要望に沿い、日常的に外出し、おやつ、日用品などの買い物を楽しんでいる。誕生日の夕食、春秋の遠足、ドライブ等、家族にも声をかけるなど、本人の「出かけた」気持ちを支援している。	事業所の目の前に広大な公園と桜並木があり、天候に合わせて散歩に出かける機会がある。また、桜、芍薬、花しょうぶ、つつじなど、季節の花を愛でる遠出、誕生日の夕食など普段行けないところへのドライブや、日常的な日用品の買物など、利用者の希望に沿った支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理ができない方がほとんどなので、事務所で必要と思われる金額を渡し、職員と共に買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞いや年賀状等、季節に応じた自分なりの工夫を職員と相談しながら作成し、ご家族や友達に送ることを楽しみにしている。希望される時に電話をかけていただくことができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな雰囲気の中で、季節を感じられる装飾を心がけている。利用者で作成する工作も季節に合ったものを選んでいく。共有空間の温度や湿度に注意し、心地良く過ごしてもらえるようにしている。	2階共用空間には2つのダイニングテーブルがあり、差し込む冬の陽が、テーブルに集う利用者の背中を暖めている。眼下には広大な公園と桜並木、その向こうには立山連峰が輝くなど、贅沢な借景である。リビングや廊下の壁面には、職員と一緒に作った季節感溢れる装飾や、外出時の写真などが掲示され、ぬくもりのある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファを活用している。テーブルの座席は気の合った人同士が顔を合わせられるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品物を持ち込んでもらい、一人ひとりの暮らしを大切に、落ち着けるような工夫をしている。家族がいつでも泊まれる配慮もしている。	居室は、約10畳あまりの広さがあり、ベッド、床頭台、タンス、テレビ、洗面台が備え付けられている。ある利用者の居室には、大きな丸テーブルが置かれ、家族来訪時の歓談の場所となっている。馴染みの家具や写真、趣味で作った作品など一人ひとりの思いを活かして、心地よく過ごせるような工夫や配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の力に応じた居室の位置、座席を考慮している。また、居室の掃除や洗濯物干し、味噌汁づくりや炊飯、盛り付け等の「できること」「わかること」を職員と一緒にしてもらっている。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホームみのり

作成日： 平成 31年 1月 21日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	(3)	運営推進会議で話されている内容について、議事録を事業所内に掲示しているが、すべてのご家族や利用者が認識し、共有できるよう、具体的な取り組みを行っていない。	年6回行っている運営推進会議で話されている内容がわかる議事録をご家族に送付し、すべてのご家族や利用者が、運営推進会議の内容(事業所の実情や検討事項等)を認識、共有できるようにする。	①今までと同様、運営推進会議で話されている内容がわかる議事録を事業所内に掲示する。 ②年6回行っている運営推進会議の議事録をすべてのご家族に送付する。	2ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。